

インダストリアルチャプター拡張コア会議（第1回）

議事録

【日時】 2016年3月21日（月） 10:30～12:30

【場所】 東京工業大学 S511 会議室（2016年春期講演会開催期間中）

【出席者】 26名

保立和夫（会長）、財満鎮明（副会長）、横山直樹（副会長）、金丸正剛（副会長）、黒田亮（キヤノン）、佐竹徹也（三菱電機）、佐藤信太郎（富士通）、鈴木誠二（パナソニック）、遠山政樹（東芝）、納谷昌之（富士フイルム）、新垣実（浜松ホトニクス）、西川恒一（豊田中研）、西本尚弘（島津）、長谷川龍一（三菱化学）、村上善照（シャープ）、益一哉（東工大）、高井まどか（東大）、瀬山倫子（NTT）、堂免恵（湧志創造）、山本治朗（日立）、嵯峨幸一郎（ソニー）、石橋茂雄（NTT）、水島一郎（東芝）、大淵真理（富士通）、植木誠（ルネサスエレクトロニクス）、渡邊明佳（浜松ホトニクス）

【内容】

1. 挨拶とインダストリアルチャプターの概要説明

まず、横山副会長より、挨拶とインダストリアルチャプター設立の経緯、インダストリアルチャプターの概要について説明があった。保立会長、財満副会長、金丸副会長よりご挨拶いただいた。

2. チャプター代表挨拶とチャプターコア会議メンバーの紹介

西川代表より、挨拶があった。（以後、議事進行は西川代表）

3. 既定メンバー候補出席者の自己紹介

コアメンバーも含め、出席者の皆様より自己紹介を行った。

4. 議事録確認

・コア会議（第1回）の議事録の確認を行った。

・2か所修正があった

① 議事録1 ページ目

（誤）開催時 16:30～17:30

（正）開催時 16:00～17:30

②議事録の3ページ目

(誤) 西川委員、佐藤委員、児玉委員がつかまれば児玉委員(瀬山委員)、新垣委員が各グループの代表として、・・・

(正) 西川委員、納谷委員、児玉委員がつかまれば児玉委員(瀬山委員)、新垣委員が各グループの代表として、・・・

・代議員より、「代議員と講演会委員の企業会員を既定メンバーとする旨、理事会で承認しているのだから、拡張コア会議でメンバー承認するのではなく、対象者は自動的に既定メンバーに組み込んではどうか。」との意見が出た。

⇒聞いていないとのクレームもあったので、初年度のみイレギュラーで、初年度は既定メンバーが承認いただく形、次年度より、自動的にメンバーとなる旨説明があった。

5. シンポジウムの進捗について

・西川代表より、2016秋講演会時の特別シンポジウム企画の進捗について説明があった。その時出た意見は以下の通り

保立会長：第5期科学技術基本計画は、科学技術を取り巻くすべての関係者に影響がある内容。シンポジウムの対象が産業界のみ絞られるともったいないのでは。幅広い人に影響がある旨含め話していただけないか。また、これから生まれる産業など、色々なステージの産業を考慮に入れてほしい。

瀬山委員：(IoT分野担当で考えた活動案にシンポジウムの内容が含まれていたため、プロジェクターを用いての説明があった。)

作り手側の発表がメインの印象。秋のシンポジウムに、技術を必要とする側の話を入れては。地方創生、というキーワードを入れ、講演会場近隣のベンチャーの人も含んでは。例：稲作実証プロジェクト、下水道氾濫兆候検知システム。また、NICOなど声かけて地方のIoTをするのもありでは。例えばシンポジウムのパネリストに呼べないか。

横山副会長：今回の企画とは別のものとして秋講演会で実施できないか。現在考えているシンポジウム案のパネルディスカッションの時間も短い。

佐藤委員：久間さんの企画とは合わないかもしれない。秋講演会なら時間的にはタイトとなると思う。また、インダストリアルチャプターのシンポジウムは特別シンポジウムとするのか。

横山副会長：特別シンポジウムにすると、無料になるので応物参加者以外も来やすい。

西川代表：質疑無しにして最後に質疑とするとシンポジウムの時間に少し余裕がでるかもしれない。必要な技術が応物から違ってきている、ということは示していかなければいけないと思うが、議題が発散してしまうのではと思う。

横山副会長：久間さんと会った時にバックキャストで考えたいという話だった。保立会長のコメントをふまえると、バックキャストだけだと産業界だけになってしまうので、逆も必要ではないか。入れた方がバランスがとれる。

保立会長：両方必要。ニーズを施行した時期もシーズを考えた時期もある。今は産業を活性化しないといけない。バランスが必要。7割バックキャスト、3割シーズなど、そういう話ができるようにしたい。バックキャストだけだと後が心配。応物ですのであれば、シーズも持っておくべき。最後は両方いるよね、ということだと思う。

西川代表：「ニーズとシーズの葛藤」という感じにすればよいかと思う。シーズを話していただく方も入れてディスカッションしては。

横山副会長：一般講演でしていただくのか、パネルで議論するのか。講演の形でしていただく人がいればよいが。パネルで取り持っていくというのもあり。

保立会長：オーガナイザーが予測しながら取りまとめる。会議を混乱させてはいけないので。

西川代表：混乱は、新たなことが生まれるきっかけづくりとなる場合もある。

保立会長：議事録 P11 に、ベンチャー創業者に話してもらってもよいのでは、大企業の方は話しづらい という意見あり。この意見をポジティブにとらえると面白いのでは。建設的な話し合いができると面白い。

西川代表：バックキャスト的な話、シーズから持って行ってうまくいっている話が入るとわかりやすい。ベンチャー系。

財満副会長：ベンチャーで少し過激な方に心当たりはないか？

堂免委員：山海嘉之先生。一年前でないと絶対無理と言われた。

横山委員：講演者には、久間さんから頼んでくれるそうである。

金丸副会長：現状のシンポジウムのタイトルはミスマッチでは。

横山副会長：久間さんが「第5期基本計画を」入れた方がキャッチーではとっている。

西川代表：サイバーフィジカルシステムにしてはという話はあったが、狭くなるので、いったん基本計画としたが、もっと広いタイトルにできるのかなと思う。

⇒今日の夜の打ち合わせにて持ち帰り検討することとなった。

6. 各グループの今後の活動案について

・納谷委員より、資料7に沿って、「医療・健康分野」で企画した、次の春の講演会で実施予定のシンポジウムについて説明があった。特別シンポジウムとするのか、詳細については今後検討。

保立会長：「デバイスでないよ」というのは大事な言葉。物理というのを拡大解釈していけばよいのでは。

納谷委員：講演会時に、企業の発表にフラグを立ててアピールするとか、一押しマークをつけるとか、できると良いと思う。会社としても良い人材を引っ張るチャンスとなる。

保立会長：今は通常セッションに招待講演を入れることができる。普通だったら来てくれない人を招待で呼んで普通のセッションをしても良いかも。しるしをつけるのも多いに賛成。

西川委員：例えば、エクスプローラーマークみたいなしるしもある。

堂免委員：中小企業の会員の応物参加費を安くできないか。応物で発表していると技術力が高いと思われ学生に対しては良いアピールとなることを、中小企業の人あまり知らない。

- ・西川代表より、自動車分野で話し合った結果について、資料7をもとに説明があった。
- ・バックキャストイングだけだと産業界だけになってしまうので。

・新垣委員より、新分野についてプロジェクターを用いて説明があった。現在新しいと言われている人工知能などは既に新しくないので、これまでに全く無かったものを新分野として考えてゆく。堂免委員から非常に沢山のニーズが出された。SFなどもヒントになるので、そうしたことも考えて講演会／シンポジウムを企画してゆく。

7. 意見交換と既定メンバーの登録について

- ・全員既定メンバーになることに同意。
- ・提案された講演案は特別シンポジウムではなく、一般講演の中に招待講演の形で組み込むことは可能→講演会との連携のために講演会企画運営委員にメンバーに加わってもらっている。
- ・支部長と分科会幹事長宛てに、企業と連携して何かの行事を行いたいときは、インダストリアルチャプターが窓口になることを伝える。
- ・支部の行事に便乗して地元企業・学生対象のイベントを行うことを検討する→事務局に支部、分科会、研究会などのメンバーリストがあるので、インダストリアルチャプターからの依頼を送付することは可能。
- ・IoTグループから提案されたシンポジウム／セッションは2016年秋に開催したい。但し、スケジュールはタイト。
- ・医療・バイオグループと自動車グループから提案されたシンポジウム案は2017年春に特別シンポジウムにすることを検討する。
- ・新分野グループの案のシンポジウムは2017年春以降で検討する。
- ・インダストリアルチャプターからの代議員の推薦は代議員推薦委員会で人数が決まったら事務局から依頼する（8月頃）。役員への推薦依頼も事務局からその頃をお願いする。
- ・就職と同時に退会する会員をつなぎとめるために、企業若手会員ネットワークが必要である。若手メンバが応物学会へ参画する意欲を向上させるために、各支部、研究会・分科会に相談してイベントを企画し、必要に応じ連絡することとなった。